

瀬戸内町立図書館・郷土館 紀 要

第2号

瀬戸内町立図書館・郷土館 2007年度活動報告書	1
瀬戸内町立図書館・郷土館 2007年度活動報告書 瀬戸内町立図書館・郷土館 2007年度活動報告書	19
瀬戸内町立図書館・郷土館 2007年度活動報告書	37
奄美諸島考古学関係文献目録……………中山 清美	89
瀬戸内町立図書館・郷土館 2007年度活動報告書	1

2007

瀬戸内町立図書館・郷土館

奄美諸島考古学関係文献目録

(1884年～2007年)

中山清美編

奄美考古学関係文献目録

はじめに

奄美諸島における考古学研究の歴史は比較的古い段階から注目されているが戦後になってからはより目を見はるものがある。それも1953年に奄美諸島が日本に復帰し、まもない昭和30年以降から行われた九学会連合の調査により多くの貴重な成果が得られている。それでも奄美諸島に於ける先史時代研究は他の研究に比べ極めて低調であり、日本本土と縄文時代から交流があったことなどが明らかになりながら海を隔てた地域としてまた、沖縄諸島は米国統治下ということもあり考古学関係の研究は思うようにはかどっていない現状にあった。そのような歴史的背景の中でも沖縄諸島においては奄美諸島と少し違って琉球王国としての誇りと誇れる歴史を大切にす琉球国民の熱き血と想いで先学者たちを奮立たせている。奄美諸島はそうした琉球の成果に便乗させてもらってきた感がある。

近年の奄美諸島における考古学の成果は日本本土とも違い、沖縄諸島とも違う奄美諸島を形成する奄美諸島史がうっすらと浮かび上がってきた。シマにいてシマを研究しようとすることはシマからの視点で見つめてみようとするものである。自分たちの住む島を誇りに思い、自分たちの住んでいる島を研究しようとすることは極めてすばらしいことである。これまで日本本土や沖縄からの研究成果に便乗してきたがこれからは地元をすえたシマからの視点でようやく研究が始まったといえよう。

このような研究を始めようとする基礎はこれまでの先学者たちが積み上げてきた研究蓄積等の検証を行うことから始めなければならない。これまで部分的な情報しかなかったが奄美考古学に関する主だった文献目録の作成を行うことから始まる。今ではパソコンなどによる豊富な情報量が簡単に入手可能であるが、先学者たちの郷土に対する熱き思いを受け止めて、これまで積み重ねられてきた研究蓄積の上にさらに積み重ねて行きたい。そのような思いでこの文献目録の作成を始めた。また、この目録をより充実した目録に完成させるにはこれからも多くの方々の手を煩わし、教示いただきながら進めていかなければならない。そしてこの目録を参考にして、自分なりの目録を完成させたらさらに幸いに思う。

この目録作成には2004年に熊本大学大学院に再入学したことで、研究基礎資料としてこれまで刊行された沖縄考古学会発行の「南島考古だより」友寄英一郎氏の「沖縄考古学関係文献目録」、鹿児島県考古学会の「鹿児島考古」などから引用して作成をはじめた。他は鹿児島県立図書館、熊本大学考古学研究室図書室などを利用させていただいた。

目録作成にあたって熊本大学考古学研究室の先生方、沖縄県の先生方、鹿児島県の先生方のご教示をはじめ多くの先生方から教示をいただいた。また、このような作業過程を知り貴重な奄美関係の文献を寄贈していただいた田村晃一氏、そしてこの投稿の機会を与えていただいた瀬戸内町図書館・郷土館にも厚く感謝の意を表したい。

2007年10月11日

中山清美

発行年

著者名

論文名

図書名

出版社名

発行年	著者名	論文名	図書名	出版社名
1884年(明治17年)	神田孝平	NOTES ANCIENT STONE IMPLEMENTS. EG. OF JAPAN 日本古石器論	東京人類学会報告 第2巻第16号	東京人類学会
1885年(明治19年)	神田孝平	人類學上ノ舊器ニ付テ并續ヨリノ遺蹟	東京人類学会報告誌 第4巻第40号	東京人類学会
1887年(明治20年)	田代定実	近世石器論五石片ノ工藝	東京人類学会報告誌 7巻第1号	東京人類学会
1889年(明治22年)	香村精彦	石器ノ及ビテノ石片	東京人類学会報告誌 第9巻第94号	東京人類学会
1891年(明治24年)	香村精彦	石器ニ付テノ石片ノ時代ノ遺蹟		
1894年(明治27年)	世屋勲助	新石器時代に於ける人類學上の事實(佐藤謙助氏著 「新石器時代の遺蹟」) 新石器時代の遺蹟	東京人類学会報告誌 第10巻第110号-114号	東京人類学会
1895年(明治28年)	世屋勲助	新石器時代の遺蹟	人類学雑誌 14123	日本人類学会
1901年(明治34年)	加藤武吉	新石器(石片、骨角、骨、貝、瓦、石、土、粘土、土器等の)	東京人類学会報告誌 第16巻第113号	東京人類学会
1902年(明治35年)	高山青輔	新石器(石片)に對する遺蹟論	人類学雑誌 17199	日本人類学会
1903年(明治36年)	神田孝平	新石器論—新石器時代の跡	新島文庫叢刊目録2	日本文化地誌研究所
1905年(明治38年)	島原隆雄	沖繩島島に在る新石器時代の遺蹟ニ就テ	東京人類学会報告誌 第20巻第227号	東京人類学会
1906年(明治38年)	島原隆雄	沖繩島島の先住人類に就テ	考古學 第4巻第8号	考古学會
1905年(明治38年)	島原隆雄	八重山の石器時代の遺蹟に就テ	大塚 第1巻第5号	博文社
1914年(大正3年)	高山青輔	遺蹟ニ就テ	中央學報	東京帝國大學
1920年(大正9年)	依村健一	近世石器論	東京帝國大學報告 人類学研究所報告 第3巻	三友堂書店
1921年(大正10年)	依村健一	近世石器論	東京帝國大學報告 人類学研究所報告	
1922年(大正11年)	大山俊	近世石器論	人類学雑誌 30巻9-10-11-12	
1922年(大正11年)	岡田耕作	近世石器論	民俗28	日本人類学会
1927年(昭和2年)	西野龍雄	近世石器論	第2巻出版 21	岡田製作所
1927年(昭和2年)	西野龍雄	近世石器論	近世石器論	三友社
1927年(昭和2年)	西野龍雄	近世石器論	近世石器論	三友社
1927年(昭和2年)	西野龍雄	近世石器論	近世石器論	三友社
1927年(昭和2年)	西野龍雄	近世石器論	近世石器論	三友社
1928年(昭和3年)	大島國雄	近世石器論	人類学雑誌 438	日本人類学会
1930年(昭和5年)	山崎五十雄	近世石器論	考古学雑誌 20巻10号	東洋堂
1930年(昭和5年)	山崎五十雄	近世石器論	近世石器論 33	三友社
1930年(昭和5年)	山崎五十雄	近世石器論	近世石器論 30巻5号	三友社
1932年(昭和7年)	小堀一夫	近世石器論	人類学雑誌 第4巻第3-4号	三友社
1932年(昭和7年)	伊波普猷	近世石器論	人類学雑誌 第1巻第5号	岡田製作所
1933年(昭和8年)	小堀一夫	近世石器論	人類学雑誌 第5巻第5号	岡田製作所
1933年(昭和8年)	小堀一夫	近世石器論	人類学雑誌 第5巻第5号	岡田製作所
1934年(昭和9年)	駒井英夫・江上英夫・藤野守一	近世石器論	近世石器論(昭和皇學大塚 第二巻)	平尺社
1934年(昭和9年)	三宅邦成	近世石器論(一) (七)	ブルグン 3-8, 6-8, 9-10, 12, 4-3	岡田製作所
1934年(昭和9年)	三宅邦成	近世石器論	考古学 11巻4号	
1934年(昭和9年)	三宅邦成	近世石器論	考古学 33-10C	
1934年(昭和9年)	三宅邦成	近世石器論	人類学雑誌 495	日本人類学会
1934年(昭和9年)	三宅邦成	近世石器論	ブルグン 第3巻10号	岡田製作所
1934年(昭和9年)	三宅邦成	近世石器論	考古学雑誌	
1935年(昭和10年)	三宅邦成	近世石器論	考古学 6巻5号	岡田製作所
1935年(昭和10年)	三宅邦成	近世石器論	ブルグン 第4巻6号	岡田製作所
1935年(昭和10年)	三宅邦成	近世石器論	ブルグン 第4巻3号	岡田製作所

1959年(昭和34年) 日分第一
1959年(昭和34年) 九条合意をめぐって

1959年(昭和34年) 朝正雄 他編

1959年(昭和34年) 岩井昭雄

1959年(昭和34年) 長本英昭

1959年(昭和34年) 實川光夫・多田直彦

1959年(昭和34年) 河口貞三

1959年(昭和34年) 香取元夫

1959年(昭和34年) 日分第一

1959年(昭和34年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

1960年(昭和35年) 日分第一

戦後の近代文化と日本史料時代の展開
野島、津波の長所 比較史的アプローチ 日本史料学大会
第12巻

野島の上巻意見、並いの頁の7も

野島直彦発行の史料学雑誌

野島大島の実地調査

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

河口貞三の著作

近代文化史論 (昭和十一年学芸文庫)
野島、津波の長所

日本の民族・文化

文化財調査 1959年版

野島、津波の長所

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本の民族・文化

日本学術振興会
平只社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

研究社

2006年(平成18年)

西野望

聖徳太子に於ける6世紀から8世紀のヤマトが利用の英雄「ヤマト」伝説上のヤマトイナを中心に

2006年(平成18年)

中山清英

聖久武土器の状況(1)

2007年(平成19年)

荒俣修

遺跡探査をめぐる歴史認識と考古学研究―「聖徳太子史」の

2007年(平成19年)

池田繁史

古代・中世の日本と琉球列島

2007年(平成19年)

橋本健策

古代養蚕の社会と歴史地図

2007年(平成19年)

深田直樹・野嶋佑司

倭国領域拡大過程の歴史

2007年(平成19年)

荒俣修

「新皇」の歴史的回廊

2007年(平成19年)

中山清英

聖徳太子神話のメカニクス

2007年(平成19年)

中島信文郎

大宰府から見た「倭国島」

2007年(平成19年)

橋本健策

美石製石鏡のたどった道

2007年(平成19年)

池田繁史

古代・中世の聖徳太子と聖徳太子

2007年(平成19年)

青野嘉彦

高麗時代の開港場と九州海上の貿易

2007年(平成19年)

重野浩人

カムイヤマトとカムイヤマト古墳群

2007年(平成19年)

山根潤一

日本古代国家と美術・多摩・奈良

2007年(平成19年)

山本修一

文獻から見るカムイヤマトと城久遠国群

2007年(平成19年)

田中忠生

九一―世紀東洋の交流世界と聖徳太子

2007年(平成19年)

村井重介

聖徳太子の

2007年(平成19年)

大和智雄

「古事記」の聖徳太子をめぐって(Ⅱ)―「万葉集」注の

2006年(平成18年)	西野望	聖徳太子に於ける6世紀から8世紀のヤマトが利用の英雄「ヤマト」伝説上のヤマトイナを中心に	東北大学大学院
2006年(平成18年)	中山清英	聖久武土器の状況(1)	東北大学大学院
2007年(平成19年)	荒俣修	遺跡探査をめぐる歴史認識と考古学研究―「聖徳太子史」の	出版社
2007年(平成19年)	池田繁史	古代・中世の日本と琉球列島	大和書房
2007年(平成19年)	橋本健策	古代養蚕の社会と歴史地図	大和書房
2007年(平成19年)	深田直樹・野嶋佑司	倭国領域拡大過程の歴史	大和書房
2007年(平成19年)	荒俣修	「新皇」の歴史的回廊	大和書房
2007年(平成19年)	中山清英	聖徳太子神話のメカニクス	大和書房
2007年(平成19年)	中島信文郎	大宰府から見た「倭国島」	大和書房
2007年(平成19年)	橋本健策	美石製石鏡のたどった道	大和書房
2007年(平成19年)	池田繁史	古代・中世の聖徳太子と聖徳太子	大和書房
2007年(平成19年)	青野嘉彦	高麗時代の開港場と九州海上の貿易	大和書房
2007年(平成19年)	重野浩人	カムイヤマトとカムイヤマト古墳群	大和書房
2007年(平成19年)	山根潤一	日本古代国家と美術・多摩・奈良	大和書房
2007年(平成19年)	山本修一	文獻から見るカムイヤマトと城久遠国群	大和書房
2007年(平成19年)	田中忠生	九一―世紀東洋の交流世界と聖徳太子	大和書房
2007年(平成19年)	村井重介	聖徳太子の	大和書房
2007年(平成19年)	大和智雄	「古事記」の聖徳太子をめぐって(Ⅱ)―「万葉集」注の	大和書房
2007年(平成19年)	西野望	聖徳太子に於ける6世紀から8世紀のヤマトが利用の英雄「ヤマト」伝説上のヤマトイナを中心に	東北大学大学院
2007年(平成19年)	中山清英	聖久武土器の状況(1)	東北大学大学院
2007年(平成19年)	荒俣修	遺跡探査をめぐる歴史認識と考古学研究―「聖徳太子史」の	出版社
2007年(平成19年)	池田繁史	古代・中世の日本と琉球列島	大和書房
2007年(平成19年)	橋本健策	古代養蚕の社会と歴史地図	大和書房
2007年(平成19年)	深田直樹・野嶋佑司	倭国領域拡大過程の歴史	大和書房
2007年(平成19年)	荒俣修	「新皇」の歴史的回廊	大和書房
2007年(平成19年)	中山清英	聖徳太子神話のメカニクス	大和書房
2007年(平成19年)	中島信文郎	大宰府から見た「倭国島」	大和書房
2007年(平成19年)	橋本健策	美石製石鏡のたどった道	大和書房
2007年(平成19年)	池田繁史	古代・中世の聖徳太子と聖徳太子	大和書房
2007年(平成19年)	青野嘉彦	高麗時代の開港場と九州海上の貿易	大和書房
2007年(平成19年)	重野浩人	カムイヤマトとカムイヤマト古墳群	大和書房
2007年(平成19年)	山根潤一	日本古代国家と美術・多摩・奈良	大和書房
2007年(平成19年)	山本修一	文獻から見るカムイヤマトと城久遠国群	大和書房
2007年(平成19年)	田中忠生	九一―世紀東洋の交流世界と聖徳太子	大和書房
2007年(平成19年)	村井重介	聖徳太子の	大和書房
2007年(平成19年)	大和智雄	「古事記」の聖徳太子をめぐって(Ⅱ)―「万葉集」注の	大和書房

○執筆者紹介（執筆順）

- 鹿嶋 浩 鹿嶋市立図書館・学芸課
藤原 隆夫 鹿嶋市立図書館・学芸課
小島 隆夫 鹿嶋市立図書館・学芸課
大村 孝 鹿嶋市立図書館・学芸課
野上 悠志 鹿嶋市立図書館・学芸課
野上 悠志 鹿嶋市立図書館・学芸課
中山 清美（奄美市教育委員会文化課課長補佐）
野上 悠志 鹿嶋市立図書館・学芸課

平成19年3月31日発行

瀬戸内町立図書館・郷土館紀要 第2号

■発行 瀬戸内町立図書館・郷土館
〒894-1507
鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋1283-17
電話 0997-72-3799 / FAX 0997-72-3999

■発行 (有) 奄美共同印刷
〒894-0021
鹿児島県奄美市名瀬伊津部町21-14
電話 0997-52-9899 / FAX 0997-53-9899